

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

2025年6月号 vol. 168

緩和ケアチームメールアドレス： kanwa@tajimi-hospital.jp

自施設での緩和ケアに関する悩みごと、県病院緩和ケアチームに対する意見や要望、施設ごとでのオンライン事例検討や勉強会などの開催要望など、なんでもお寄せ下さい。



～ チームメンバーより一言 ～

呼吸器内科 医師・志津 匡人

こんにちは、緩和ケアチーム身体症状担当の呼吸器内科、志津匡人です。今年も緩和ケア通信の担当が回ってきました。昨年緩和ケア通信にて緩和医療専門医に挑戦する旨を記しました。その報告ですが、挑戦はしようと症例レポートを作成し、いざ申請しようとするところで受講したと思っていたセミナーが違うものだということに気づき、なんと受験資格がないという結果に終わってしまいました。今年こそはセミナーまで受講して挑戦しようと準備中です。来年の緩和ケア通信での吉報をお待ちください。

最近、私が卒業した高校の年1回の同窓会が行われました。この同窓会は50歳になる学年が幹事学年となって開かれるものであり、受付係、駐車場係など人手が多数いるため、お手伝いで参加してきました。そこで久しぶりに出会った同級生が地元で訪問看護ステーションを立ち上げてたり、在宅クリニックの事務として勤務をしていたり、日頃こちらからの依頼を引き受けていただく立場の方々にお会いすることができました。やっぱりご縁というもの是非常に大事なとしみじみと感じたところであり、さっそく同級生が立ち上げた訪問看護ステーションに患者様を依頼させていただきました。今後も長く良い付き合いができればなと思っています。



緩和ケア 病棟師長・渡邊 理江

NHK朝ドラで「あんぱん」が放映されています。「何のために生まれて何のために生きるのか。答えられないなんてそんなのは嫌だ。何が君の幸せ。何をして喜ぶ・・・」と続くこの歌、現代を生きる我々は誰もが聞いたことがあるのではないのでしょうか。この歌を子供と一緒に歌ったとき「すごい歌詞だ」と衝撃を覚えました。

最近、娘の先輩を看取りました。26歳の時に大腸がんに罹患し4年の闘病を頑張り生ききりました。彼女と「(親より早く逝く私) 何のために生まれたの?」「(自力で動けなくなった私) なんのために生きているの? 生きている意味?」という会話を何度もしてきました。

そんな彼女が動けなくなった頃、家族が調子悪くなり自宅に帰ることがありました。彼女は「大丈夫? って私がケアしてあげたいのに、動けない! できない! 悔しい~! 私は何もできない! 何のために生きているの~?」と私の胸に顔を埋めてわんわん泣きました。その悔しさを受け止めていると「家族(誰か)が笑顔になれるように・・・生きたい」と呟きました。

ベッドから動けなくても、残り少ない時間だとわかっていても、大切な誰かの笑顔の力になれるなら・・・と生ききる姿は関わる人々が「何のために生まれて何のために生きるのか」考え噛みしめる大切な経験となりました。そして今もずっと誰かの「生きる」を支える力、笑顔の力になっている・・・と感じています。やなせたかしさんの歌詞が心に深くリフレインしています。

